

# モジュラー束と分配束との間の中間の束について

神戸大教育 田村 三郎

モジュラー束と分配束との間にある中間の束のあるシリーズを等式によって定式化することが、この小論の一つの目的である。

定義1. モジュラー束  $M$  の任意の元  $\alpha_1, \alpha_2, \dots$  に対し,  
 $\delta_0, \delta_1, \dots, \varepsilon_0, \varepsilon_1, \dots$  を次のように定義する。

$$\delta_0 = \alpha_1 \cup \alpha_2$$

$$\varepsilon_0 = \alpha_2$$

$$\delta_{2n-1} = \bigcup_{i=1}^{2n-1} (\alpha_i \cap \alpha_{2n+1}) \cup (\delta_{2n-2} \cap \alpha_{2n+1})$$

$$\varepsilon_{2n-1} = \bigcup_{i=1}^{2n-1} (\alpha_i \cap \alpha_{2n+1}) \cup (\varepsilon_{2n-2} \cap \alpha_{2n+1})$$

$$\delta_{2n} = \bigcap_{i=1}^{2n} (\alpha_i \cup \alpha_{2n+2}) \cap (\delta_{2n-1} \cup \alpha_{2n+2})$$

$$\varepsilon_{2n} = \bigcap_{i=1}^{2n} (\alpha_i \cup \alpha_{2n+2}) \cap (\varepsilon_{2n-1} \cup \alpha_{2n+2})$$

モジュラー束  $M$  の任意の元  $\alpha_1, \dots, \alpha_{n+2}$  が

$$\text{等式 } \delta_n = \varepsilon_n$$

を満足するとき, このモジュラー束  $M$  を  $D_n$  束という.

定義 2. 最小元  $0$  と最大元  $1$  を持つ  $n+4$  元束

$$L_n = \{0, p_1, \dots, p_{n+2}, 1\}$$

において,  $p_1, \dots, p_{n+2}$  がお互いに比較不能であるとき, この  $n+4$  元束  $L_n$  を  $n$  本マスという.

補助定理 1.  $\varepsilon_0, \varepsilon_1, \dots, \delta_0, \delta_1, \dots$  が定義されているとき, 各  $\alpha_i$  に対し,  $n$  本マス  $L_n$  の元  $p_i$  を代入すれば, 負でない整数  $k$  に対し

$$\delta_{2k} = 1, \quad \varepsilon_{2k} = p_{2k+2}$$

$$\delta_{2k+1} = p_{2k+3}, \quad \varepsilon_{2k+1} = 0$$

証明.  $k$  についての帰納法による.

$$k=0 \text{ のとき, } \delta_0 = p_1 \cup p_2 = 1, \quad \varepsilon_0 = p_2$$

$$\delta_1 = (p_1 \wedge p_3) \cup (\delta_0 \wedge p_3) = 0 \cup (1 \wedge p_3) = p_3$$

$$\varepsilon_1 = (p_1 \wedge p_3) \cup (\varepsilon_0 \wedge p_3) = 0 \cup (p_2 \wedge p_3) = 0$$

$k$  より小さいときを仮定し, 一般のステップ  $k$  について考  
える.

$$\delta_{2k} = \bigcap_{i=1}^{2k} (p_i \cup p_{2k+2}) \wedge (\delta_{2k-1} \cup p_{2k+2}) = 1 \wedge 1 = 1$$

$$\varepsilon_{2k} = \bigcap_{i=1}^{2k} (p_i \cup p_{2k+2}) \cap (\varepsilon_{2k-1} \cup p_{2k+2}) = 1 \cap p_{2k+2} = p_{2k+2}$$

$$\delta_{2k+1} = \bigcup_{i=1}^{2k+1} (p_i \cap p_{2k+3}) \cup (\delta_{2k} \cap p_{2k+3}) = 0 \cup p_{2k+3} = p_{2k+3}$$

$$\varepsilon_{2k+1} = \bigcup_{i=1}^{2k+1} (p_i \cap p_{2k+3}) \cup (\varepsilon_{2k} \cap p_{2k+3}) = 0 \cup 0 = 0$$

定理2.  $n$ 本マヌ  $L_n$  は  $D_n$  束ではない。

証明.  $x_i = p_i$  と置くと, 補助定理1より  $\delta_n \neq \varepsilon_n$ .

したがって,  $L_n$  は  $D_n$  束ではない。

定理3.  $n$ 本マヌ  $L_n$  は  $D_{n+1}$  束である。

証明.  $L_n = \{0, p_1, \dots, p_{n+2}, 1\}$  の各元を代入したとき, 等式  $\delta_{n+1} = \varepsilon_{n+1}$  を満たすことを,  $n$  についての帰納法で証明する。

$n=0$  のとき.  $D_1$  束は分配束自身であるし,  $0$ 本マヌ  $L_0$  は分配束になっているので,  $D_1$  束である。

$n$ より小さいときを仮定し, 一般のステップ  $n$  について考える.  $x_1, \dots, x_{n+2}, x_{n+3}$  に対し,  $n$ 本マヌ  $L_n$  の任意の元を代入する。

1)  $x_1, \dots, x_{n+2}$  に対し, ある  $p_i$  を代入していいと

する。帰納法の仮定より  $\delta_n = \varepsilon_n$  がいえるので、 $\delta_{n+1} = \varepsilon_{n+1}$  もいえる。

2)  $x_1, \dots, x_{n+2}$  に対し、すべての  $p_i$  を代入していきるときを考慮する。このとき、 $x_i = p_i$  と考えても一般性を失われない。

○  $n = 2k$  のとき

補助定理1より、 $\delta_{2k} = 1$ ,  $\varepsilon_{2k} = p_{2k+2}$

$$\delta_{2k+1} = \bigcup_{i=1}^{2k+1} (p_i \cap x_{2k+3}) \cup (1 \cap x_{2k+3}) = x_{2k+3}$$

$$\varepsilon_{2k+1} = \bigcup_{i=1}^{2k+1} (p_i \cap x_{2k+3}) \cup (p_{2k+2} \cap x_{2k+3})$$

1)  $x_{2k+3} = 0$  ならば、 $\varepsilon_{2k+1} = 0 = \delta_{2k+1}$

□)  $x_{2k+3} = p_j$  ならば、 $\varepsilon_{2k+1} = p_j = \delta_{2k+1}$

ハ)  $x_{2k+3} = 1$  ならば、 $\varepsilon_{2k+1} = 1 = \delta_{2k+1}$

○  $n = 2k-1$  のとき

補助定理1より、 $\delta_{2k-1} = p_{2k+1}$ ,  $\varepsilon_{2k-1} = 0$

$$\delta_{2k} = \bigcap_{i=1}^{2k} (p_i \cup x_{2k+2}) \cap (p_{2k+1} \cup x_{2k+2})$$

$$\varepsilon_{2k} = \bigcap_{i=1}^{2k} (p_i \cup x_{2k+2}) \cap (0 \cup x_{2k+2}) = x_{2k+2}$$

$x_{2k+2} = 0, p_j, 1$  のどの場合も、 $\delta_{2k} = x_{2k+2} = \varepsilon_{2k}$

以上をまとめると、

- 1)  $D_1$  束は分配束と一致する.
- 2) 各  $D_n$  束はモジュラー束である.
- 3) 各  $D_n$  束は  $D_{n+1}$  束である.
- 4)  $n$  本マス  $L_n$  は  $D_n$  束ではないが,  $D_{n+1}$  束である.

